

氏名(本籍)	楊 玉 珍 (中 国)
学位の種類	博 士 (教 育 学)
学位記番号	博 甲 第 943 号
学位授与年月日	平 成 4 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第5条第1項該当
審査研究科	教 育 学 研 究 科
学位論文題目	中国における幼稚園教育の導入と展開 ——清朝末期から民国期まで——
主 査	筑波大学教授 長谷川 栄
副 査	筑波大学教授 佐々木 俊 介
副 査	筑波大学教授 瀬 尾 政 雄
副 査	筑波大学助教 教育学博士 松 村 和 則

## 論 文 の 要 旨

### (1) 本論文の構成

本論文は、序章、本論5章、終章より構成され、本文470頁、参考文献12頁、資料15頁より成る。

### (2) 本論文の目的と方法

本論文の目的は、中国の清朝末期から民国期までの幼稚園教育の導入と展開の歴史的過程を分析することにある。これに基づいて、次の研究課題が立てられる。①清朝末期における幼稚園教育の導入の背景と経緯を調べて、その導入の特徴を明らかにすること、②導入された幼稚園教育が中国社会に機能する際に生じた問題や矛盾とその原因を明らかにすること、③その問題や矛盾の克服の過程を通して、国情に合致した幼稚園教育の建設を目指した教育運動や教育実践の試みを究明すること、④国民政府による幼稚園教育の整備を分析して、その特質を明らかにすること、⑤中国社会の実情と伝統文化に基づいた幼稚園教育の確立の過程に見出される歴史的教訓と経験を総括することである。

こうした研究課題を明らかにするために用いる視点は、幼稚園教育を中国の社会的・文化的文脈の中で機能するものと捉え、その受容と展開の具体的事実を社会の実情や伝統文化と結びつけて解釈するということである。研究は歴史的な実証の方法をとり、第一次史料を広く探索して発掘し、その解釈を試みる。

幼稚園教育の導入と展開の過程は大きく三つの時期に区分される。①導入期（1900年前後から中華民国の成立の1912年まで）、②低迷・不振の時期（中華民国成立から1920年代初頭まで）、③摸索期（1920年代初頭から中華人民共和国の成立する1949年まで）。幼稚園教育の歴史的展開は、法的規

定レベルの幼稚園教育制度と実践レベルの幼稚園教育の展開という二つの次元から分析される。

### (3) 研究結果の概要

第一章は、清朝末期の幼稚園教育導入の背景をさぐる。半植民地状態の内憂外患の社会情勢の中で、中国を富強化する方策として、近代学校教育が日本をモデルにして中国に導入される。その推進は、根本的には「中体西用」論の思想に基づいていた。幼稚園教育は、学校教育導入の一環として初めて注目されるようになる。

第二章では、清朝末期幼稚園教育導入の経緯が明らかにされる。主に日本を経由して幼稚園教育の知識や理論が伝えられ普及された結果、清朝政府は幼稚園教育制度を日本をモデルに導入した。その教育の実践は、日本人女性教習の招聘と中国人の日本留学を経て展開された。幼稚園教育の制度、実践及び理論のいずれにせよ、この導入の特徴は、中国の伝統文化である儒教を中心に置き、これを西洋の幼稚園教育の形式と結合させるということである。

第三章は、民国初期の幼稚園教育の低迷の実態を明らかにする。当時の幼稚園教育は、施設や内容の基準がなく、制度が不備であった。その実践の展開には、外国の幼稚園教育の形式を模倣する「外国化」の傾向、キリスト教宣教団体の強い影響による幼稚園教育の「宗教化」の傾向、さらに教育内容や方法に小学校教育の形式をまねる「小学校化」の傾向がみられた。しかも、その教育は一部の裕福な階層に享受されるものにすぎなかった。

こうした低迷・不振の原因は、幼稚園教育を支える政治的・経済的基盤が存在しなかったこと、宗教団体の力が幼稚園教育を支配していたこと、近代的な幼稚園教育理論が構築されていないことなどである。

第四章では、1920年代から30年代にかけて、幼稚園教育の低迷の状態を打開するための運動が展開され、国情にあった幼稚園教育の定着を目指す試みが明らかにされる。一つは、全国教育連合会と中華教育改進社が中国の国情と幼児の心身の発達に適合する幼稚園教育の建設の方向を示して、教育界の全体にその教育の必要性和普及課題を意識させる上で大きな役割を果たした。こうした教育団体の活動の蓄積を基にして、陳鶴琴が指導した南京鼓楼幼稚園は、外国の教育理論を吸収しつつ実験研究を通して幼児の心身発達に即した方法を開発し、幼稚園教育理論の構築に寄与した。さらに、陶行知が中心となって指導した郷村幼稚園運動は、社会の低層にいる民衆のための幼稚園の創立を実現した。そこで目指された「平民的、節約的、国情に適合する」幼稚園教育の模索は、その後の幼稚園教育の方向を規定する契機となる。

第五章は、国民政府による幼稚園教育の整備の状況を明らかにする。国民政府は、幼稚園教育の全般にわたる法的基準を制定し、その整備を行う。その特質は、第一に、中国社会の現実的需要、風俗習慣、地方の社会と自然の状況、国民の経済力などの国情に合致する方向で制度を整備したことである。第二に、教育の内容と方法及び設備の基準に関して、幼児の個性、要求、興味、自由活動の尊重が強調され、幼児の心身発達の特性、能力、実生活経験に依拠することを規定したことである。第三に、孫文の「三民主義」に基づいて幼稚園教育の整備をしたことである。しかし、国民党の独裁体制の維持に応じた反共的、儒教的解釈の加えられた「三民主義」の方向の幼稚園教育制

度の整備は、忠孝の道徳を身につけた国民の育成が期待された。このため、幼稚園教育の手段的側面が強調されるようになる。この時期でも幼稚園教育が社会に定着するまでに至っていなかったとはいえ、中国の国情に合致する幼稚園教育の確立を目指した制度の整備は、中国の幼稚園教育の基盤を形成した意義が認められる。この上で、社会主義建設期の幼稚園教育が出発するのである。

最後に本論文から得られる示唆として、①幼児の成長と発達と保障という幼稚園教育の教育的価値の実現を重視すること、②外国の幼稚園教育理論を主体的に吸収しながら、実験研究を通じて中国の幼稚園教育理論を構築すること、③近代的な教育の機会均等の理念のもとで、農村への幼稚園教育の普及を図ること、が指摘される。

## 審 査 の 要 旨

本論文は、中国の清朝末期から民国期までの今世紀前半の幼稚園教育の歴史を究明したものである。幼稚園教育の導入の経緯とその後の低迷と不振の状態、それを打開し克服する試みと運動を経て、次第に幼稚園教育が普及し整備されていく状況が明らかにされる。中国の幼稚園教育の歴史研究は、中国でも日本でも、特定の時期の特定の人物の幼稚園教育の思想や実践の断片的解明にとどまっていた。本研究がこれらの研究の空白を埋めてつながりを与え、幼稚園教育の歴史的展開を総体として明らかにし、これまでの未開拓の研究分野に筋道をつけたことは、大きな業績として評価できる。

幼稚園教育の歴史研究にとって大事な史料を探索し収集し整理するのは、筆者が大変苦勞し努力したことである。このために、これまでの研究に対して新しい史料を加えることができた。史料の解釈は、幼児の成長と発達と保障を基本にすえながら、中国の社会的状況と伝統文化との関係に着眼して適切に進められている。

幼稚園教育の導入と展開は、その制度の検討ばかりでなく、その実践にも眼が向けられて吟味されている。幼稚園教育が実際にどのように展開されたのかということ考察することは、大変重要な意義をもっている。しかし、その史料の収集と解釈はなかなか困難であり、本研究でも今後期待するところが大きい。本研究が足場になって、幼稚園教育の実践史の研究がさらに発展することが望まれる。

よって、著者は博士（教育学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。